

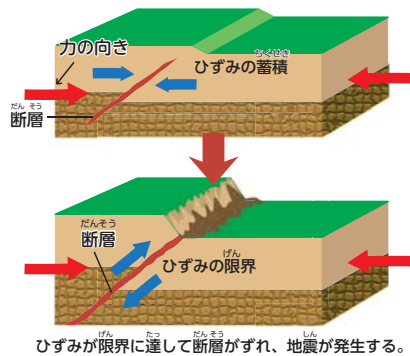
地震を知って発生に備えよう

地震には、起こる場所や原因によっていくつかのタイプがあります。その代表的なものが、内陸で発生する比較的震源の浅い「**活断層による地震**」と、海と陸のプレートの境界あたりで発生する震源の深い「**海溝型地震**」です。

活断層による地震発生メカニズム

陸のプレートや陸のプレートに潜り込んだプレートの中で起きる地震です。浅い部分で起こると、真上では強い揺れを引き起こします。

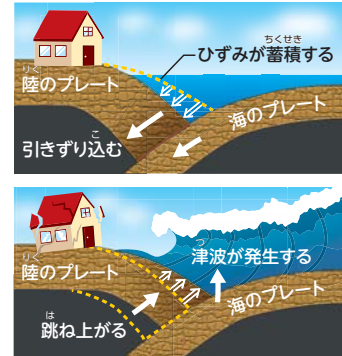
- 【主な地震】
- ・阪神・淡路大震災 (1995年)
 - ・熊本地震 (2016年)
 - ・能登半島地震 (2024年)
 - など



海溝型地震発生メカニズム

プレート境界で、陸のプレートが跳ね上がり発生します。内陸型地震に比べると、揺れる範囲が広く、強い揺れとともに津波を引き起こすことがあります。

- 【主な地震】
- ・昭和東南海地震 (1944年)
 - ・昭和南海地震 (1946年)
 - ・東日本大震災 (2011年)
 - など



地震による主な被害

建物の揺れ・倒壊

強い揺れは、室内の家具などの転倒や落下の原因となり、多くの建物で壁のタイルや窓ガラスが割れて落下したり、ブロック塀が倒れたりします。また、耐震性の弱い建物は倒れたり、つぶれたりします。

津波

地震によって発生した大きな波が海岸に押し寄せます。そして建物ごと押し流し、多くの人命を奪い、多くの被害をもたらします。

液状化現象

砂地盤で発生しやすく、液状化現象が起こると地面から泥水が噴き出したり、地盤沈下が起こり、下水管やマンホールなど地中の構造物が浮き上がる、建物が傾くなど、さまざまな被害が生じます。

がけ崩れ・地すべり

急傾斜地や土を盛って地面を高くした場所などでは、がけ崩れや地すべりが発生することがあります。

ため池決壊

堤防に亀裂や陥没などが発生したり、地盤が液状化してため池が決壊することがあります。もし決壊したら、大量の水や土砂が濁流となって、建物や車などを押し流します。また、道路や住宅地、田畑は土砂に埋まります。

地震火災

地震の際に火災が起きると、広域に延焼し、大きな災害となります。津波を伴うと、燃えた建物が流され、延焼を引き起こします。

ライフライン被害

電気、ガス、水道などライフラインの供給が止まり、避難生活に大きな影響をもたらします。また、通信や交通が不通になったり混乱したりして、情報収集や公的支援などが困難になります。

震度ごとの揺れの目安

震度 4	●ほとんどの人が驚く。 ●つり下げたものは大きく揺れ、棚にある食器類は音を立てる。	
震度 5弱	●棚にある食器類、書棚の本が落ちることがある。 ●まれに窓ガラスが割れて落ちることがある。 ●電柱が揺れているのがわかる。	
震度 5強	●物につかまらなと歩くことが難しい。 ●固定していない家具が倒れることがある。 ●自動車の運転が困難になる。	
震度 6弱	●立っていることが困難になる。 ●壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。 ●耐震性の低い木造住宅では、倒壊するものもある。	
震度 6強	●はわないと動くことができない。 ●固定していない家具のほとんどが移動、倒れるものが増える。 ●耐震性の高い木造住宅でも、壁などにひび割れ・亀裂がみられることがある。	
震度 7	●揺れにほんろうされる。 ●ほとんどの家具が移動し、飛ぶものもある。 ●耐震性の高い木造住宅でも、まれに傾くことがある。	

南海トラフ地震はいつ起きる？

静岡県の駿河湾から九州の日向灘沖までのびる海底のプレートの境界が接する海溝(深海底の溝状の地形)を南海トラフといい、ここで起きる地震が「**南海トラフ地震**」です。

南海トラフでは**100～150年間隔**で大規模な地震が発生しており、前回の昭和東南海地震

(1944年)および昭和南海地震(1946年)などを考慮すると、**30年以内にマグニチュード8～9クラスの地震が70%～80%の確率で発生すると予測**されています。なお、南海トラフ地震の発生可能性が通常と比べて**相対的に高まった**と評価された場合に、気象庁から「**南海トラフ地震臨時情報**」などが発表されます。政府や自治体などからの呼びかけ等に応じた行動をとりましょう。

※通常とは異なるゆっくりすべりが観測された場合は、すべりの変化がおさまってから変化していた期間と概ね同程度の期間が経過したときまで

南海トラフ地震臨時情報が発表されたら何をすればいいの？

地震発生から最短2時間後	南海トラフ地震臨時情報 (巨大地震警戒)	南海トラフ地震臨時情報 (巨大地震注意)	南海トラフ地震臨時情報 (調査終了)
(最短) 2時間程度	・ 巨大地震からの地震への備えの再確認に加え、地震が発生したらすぐに避難するための準備 ・地震発生後の避難では間に合わない可能性のある住民は 事前避難	・ 巨大地震からの地震への備えの再確認に加え、地震が発生したらすぐに避難するための準備 	・大規模地震発生の可能性がなくなったわけではないことに留意しつつ、地震の発生に注意しながら通常の生活を行う。
1週間(※)	・ 巨大地震からの地震への備えの再確認に加え、地震が発生したらすぐに避難するための準備	・大規模地震発生の可能性がなくなったわけではないことに留意しつつ、地震の発生に注意しながら通常の生活を行う。 	
2週間	・大規模地震発生の可能性がなくなったわけではないことに留意しつつ、地震の発生に注意しながら通常の生活を行う。 	・大規模地震発生の可能性がなくなったわけではないことに留意しつつ、地震の発生に注意しながら通常の生活を行う。 	

常滑市における南海トラフ地震の被害想定

南海トラフで繰り返し発生している地震・津波のうちで過去に実際に発生したもの(宝永、安政東海、安政南海、昭和東南海、昭和南海の5地震)を参考に想定した「過去地震最大モデル」と、国の被害想定をもとに、あらゆる可能性を考えた最大クラスの地震・津波を補足的に想定することとした「理論上最大想定モデル」の2パターンが示されています。

想定		過去地震最大モデル	理論上最大想定モデル
人的被害 (死者数、冬深夜火災)	建物倒壊など	約20人	約300人
	浸水・津波	約80人	約200人
	火災	*	約50人
建物被害 (全壊・焼失棟数、冬夕方火災)	ゆれ	約400棟	約4,300棟
	液状化	約10棟	約10棟
	浸水・津波	約200棟	約70棟
	急傾斜地崩壊など	約20棟	約20棟
火災		約10棟	約2,400棟
最大震度		6強	7
最大津波高		4.4m	5.5m
最短津波到達時間 (津波高30cmの到達時間)		58分	54分
浸水面積 (浸水深1cm以上)		360ha	588ha

想定		過去地震最大モデル
ライフライン被害 (発災1日後の想定)	上水道 (断水人口)	約54,000人
	下水道 (機能支障人口)	約22,000人
	電力 (停電軒数)	約28,000軒
	固定電話 (不通回線数)	約10,000回線
	携帯電話 (停電基地局率)	約81%
	都市ガス (復旧対象戸数)	*
避難者数 (冬夕方火災)	LPガス (機能支障世帯数)	約2,500世帯
	1日後	約11,000人
	1週間後	約10,000人
1ヶ月後		約2,000人

*:被害わずか
資料/平成26年5月愛知県公表